

(電子メール施行)  
農技 1106 号  
令和2年6月4日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和2年度病虫害発生予報第2号を發表します。

令和2年度病虫害発生予報 第2号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病(葉いもち)	平年並	平年並
	ヒメトビウンカ	平年並	平年並
ナシ	黒斑病	<b>やや多</b>	<b>やや多</b>
	黒星病	平年並	やや少
	ハダニ類	やや少	少
	アブラムシ類	やや少	少
野菜共通	シロイチモジヨトウ	<b>やや多</b>	平年並
果樹共通	果樹カメムシ類	<b>多</b>	<b>多</b>

\* 気象の概況

近畿地方 1か月予報  
(6月6日から7月5日までの天候見通し)

令和2年6月4日  
大阪管区気象台 発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。

<予想される向こう1か月の天候>

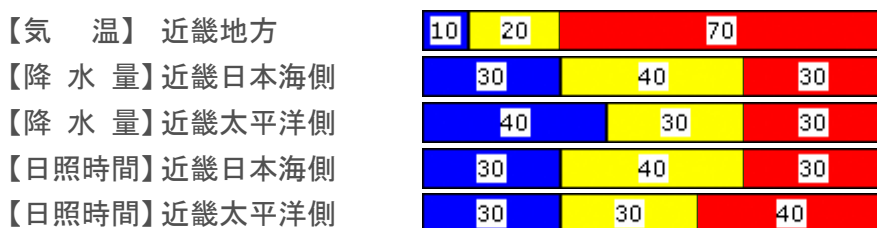
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

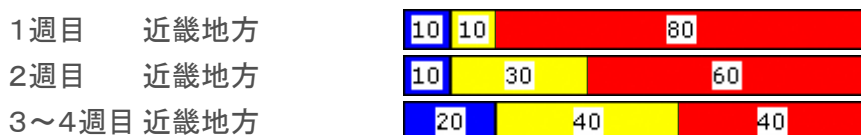
週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、降雪量の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

## \* 発生概況及び防除対策上の留意点

### イネ

#### 1 【いもち病】（葉いもち）

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠

ア 5月下旬時点では、県内における本病の発生は認められていない。今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、平年同様に曇りや雨の日が多いと予想されることから、平年並の発生が予想される。

イ 6月上旬より梅雨明けまで、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページ上でBLASTAMによるいもち病の感染好適日の情報を提供しているので参考にすること。

<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>

#### 2 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
- (2) 予報の根拠

ア 5月下旬のムギ予察圃場（農技センター内）におけるすくい取り調査では第1世代幼虫が認められている（29頭/10回振り、平年51.7頭）。1か月の気象予報によると、気温は平年より高いとされていることから、今後、第1世代虫の発生最盛期には発生量は平年並になると予想される。

イ 現時点の生息場所であるムギの収穫が進むに伴って、第1世代成虫の水稲本田への飛び込みが助長される。さらに、収穫期の遅いムギでは第1世代幼虫が成虫となるまでの期間が確保されやすいことから、周辺水稲への飛び込み量が多いことが予想されるため、注意が必要である。

ウ 本種は縞葉枯病を媒介するため、ムギ周辺圃場及び前年度に本病が多発した地域では本年度も発生が懸念される。前年秋の縞葉枯ウイルス保毒虫率は、播磨地域で高い傾向が見られており（令和元年度病害虫発生予察技術情報第1号 <http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>）、特にこれらの地域では本病の発生に注意すること。

### ナシ

#### 1 【黒斑病】

- (1) 予報の内容 発生量： やや多
- (2) 予報の根拠

ア 5月中旬の北部農技内の調査（朝来市）及び現地調査（県北部）では、平年より早い時期から発生が認められており、短果枝の発病葉率5.6%（過去5年の平年値1.9%）、発育枝の発病葉率1.0%（同平年値0.2%）と、発生量はやや多い傾向にある。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、平年同様に曇りや雨

の日が多いと予想されていることから、気温の上昇と降雨により本病の発生が助長され、発生量はやや多くなると予想される。

(3) 防除上の留意点

- ア 農薬散布時は、薬液が十分かかるように不要な徒長枝を切り落とすこと。
- イ 大袋かけ前は黒斑病の重点防除時期なので、ていねいに薬剤散布する。
- ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、耐性菌管理の観点から農薬の選定にあたっては、同系統の薬剤の連用は避ける。

(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

## 2 【黒星病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠

- ア 5月中旬の北部農技内の調査(朝来市)及び現地調査(県北部)では発病は認められなかったが、県中部の一部地域で発生が認められている。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、平年同様に曇りや雨の日が多いと予想されていることから、平年並の発生になると予想される。

## 3 【ハダニ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠

- ア 5月中旬の北部農技内の調査(朝来市)及び現地調査(県北部)では発生は認められていない。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高いと予想されているが、平年同様に曇りや雨の日が多いことから、急激な増加はなく、やや少ない発生になると予想される。

## 4 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠

- ア 5月中旬の北部農技内の調査(朝来市)及び現地調査(県北部)では発生は認められていない。
- イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高いと予想されているが、平年同様に曇りや雨の日が多いことから、急激な増加はなく、やや少ない発生になると予想される。

## 野菜共通

### 1 【シロイチモジヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠

- ア 加西市(農技センター内)に設置しているフェロモントラップでは4月～5月5半旬までの成虫誘殺数の合計が4頭、初誘殺は4月4半旬であり、これは平年と比較して、誘殺数はやや多く、誘殺時期はやや早い。南あわじ市(淡路農技

内)に設置しているフェロモントラップでは誘殺が3月から認められており、初誘殺時期としてはやや早く、4月～5月5半旬までの成虫誘殺数の合計は18.3頭(平年値4.6頭)とやや多くなっている。

イ 今後の1か月予報によると気温は平年より高いと予想されており、季節的にも本種の増殖に好適な条件になるため、発生はやや多くなると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、発生が早くなっていることから、定植直後の被害には特に注意すること。

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

## 果樹共通

### 1 【果樹カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：多

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は表年(発生の多い年)に該当する。加西市(農技センター内)に設置しているフェロモントラップにおける4月～5月4半旬までの合計誘殺数は、チャバネアオカメムシ 1024頭(表年の過去5年分平均値193.4頭)、ツヤアオカメムシ 99頭(同平均値4.9頭)と、通常の表年より極めて多い状況であった。さらに、5月5半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシ 852頭、ツヤアオカメムシ 24頭と、依然として誘殺の多い状況が続いている。

イ 朝来市(北部農技内)に設置しているフェロモントラップでは平年より早い時期からチャバネアオカメムシの誘殺が認められており、4月～5月4半旬までの合計誘殺数は168頭と、表年の過去3年分平均値の50.0頭を大きく上回っている状況であった。さらに、5月5半旬の誘殺数は135頭と、依然として誘殺の多い状況が続いている。

ウ 加西市の予察灯におけるチャバネアオカメムシの4～5月4半旬までの合計誘殺数は9頭で、表年過去5年分平均値(6.8頭)よりやや多い。さらに5月5半旬の誘殺数は32頭で、多発生がみられた2019年と同様、5月下旬からの誘殺数の増加がみられている。

エ 加西市と新温泉町のナシ園では、5月上旬からチャバネアオカメムシとカメムシ類成虫の発生が確認されており、加西市のナシ園では幼果の被害も認められている。

オ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高いと予想されていて、気温の上昇に伴いカメムシ類の活動が盛んとなるため、加害の助長が懸念される。

カ 果樹カメムシ類の詳細については、令和2年度病害虫発生予察注意報第1号(令和2年5月28日付け)を参考にすること(HPに掲載)。

(3) 防除上の留意点

ア 飛来状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)

等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

\* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載

<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>